

## 三重大学リカレント教育センターの活動について

三重大学の教育リソースを活かした 地域と企業が今を生き抜くためのリカレント教育の提供

- 人材確保が困難になる中、自治体や企業にはリカレント教育の必要性が高まっている
- 三重大学は令和4年にリカレント教育センターを整備し、3年間活動してきた
- 令和6年度には、県内の企業や自治体に新規開発した教育プログラムを提供した
- リカレント教育によって個人や企業に変化が生まれ、具体的な成果が上がり始めている

### 【センターの概要】

三重大学は、地域の皆様のニーズに合った教育プログラムを構築・提供することを目的として、令和4年4月にリカレント教育センターを整備した。当センターが活動を開始してから間もなく3年が経過するが、開発したリカレント教育プログラムを県内の企業や自治体に提供することにより、受講者や受講者の所属する組織に具体的な成果が上がり始めている。

### 【発表内容】

活動開始から間もなく3年が経過する当センターについて、主に令和6年度における活動の概要を発表する。特に、今年度新規に実施したリカレント教育プログラムの中から、オーダーメイドプログラムである「鈴鹿市・政策提案力向上プログラム」と「キオクシア㈱・課題抽出力向上プログラム」を紹介するとともに、令和4年度より3年間継続しているレディーメイドプログラムの「DX人材育成プログラム」について具体的に紹介する。

### 【今後の展望】

リカレント教育センターでは、当センターのリカレント教育プログラム修了生の交流の場として、修了生コミュニティを整備中である。今年度は、「DX人材育成プログラム」修了者の交流会を初めて対面で実施した。今後はこの修了生コミュニティをさらに拡充していく予定である。



The infographic features the Mie University logo and the title '三重大学 リカレント教育センター' (Mie University Recurrent Education Center). Below the title, it addresses '社会人のみなさま' (Dear Working Adults) with the question 'こんなお悩みはありませんか?' (Do you have any such concerns?). Three scenarios are illustrated with characters and speech bubbles: 1. 'スキルが低く お客様の対応に 自信が持てない' (Skills are low, I lack confidence in responding to customers), 2. 'もっと学んで レベルアップ したい' (I want to study more and level up), and 3. '効果的な 仕事の進め方を 学びたい' (I want to learn effective ways to work). The bottom section, titled '三重大学・リカレント教育センターとは' (What is Mie University Recurrent Education Center?), states: '三重大学がもつノウハウを活かし、リカレント教育を通じて企業の人材育成や地域社会の発展に 貢献していく教育センターです。' (We utilize Mie University's know-how to contribute to corporate human resource development and regional society development through recurrent education.)

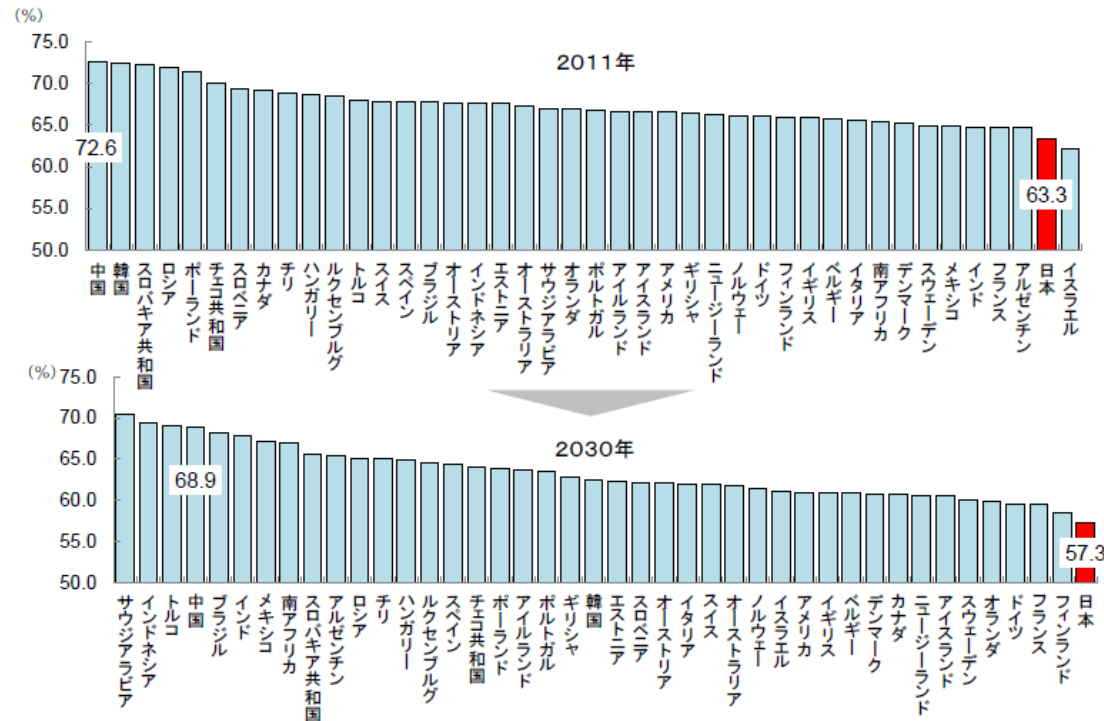
### <本件に関するお問合せ>

三重大学リカレント教育センター

TEL: 059-231-9226

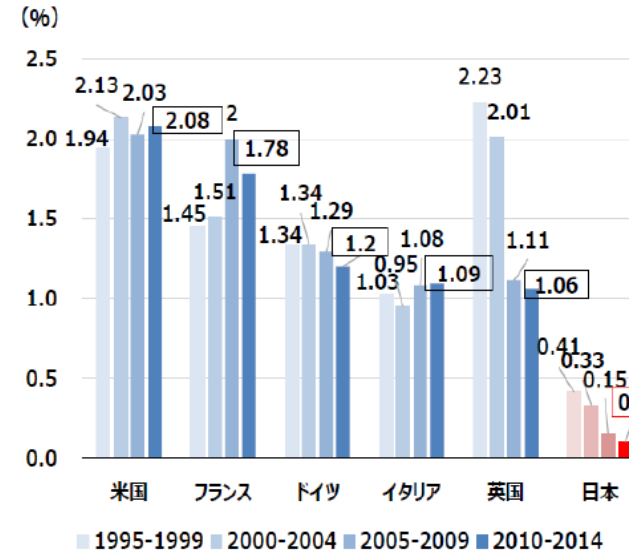
E-mail: [recurrent@ab.mie-u.ac.jp](mailto:recurrent@ab.mie-u.ac.jp)

# 【背景】 地域と企業が今を生き抜くためにはリカレント教育が必須



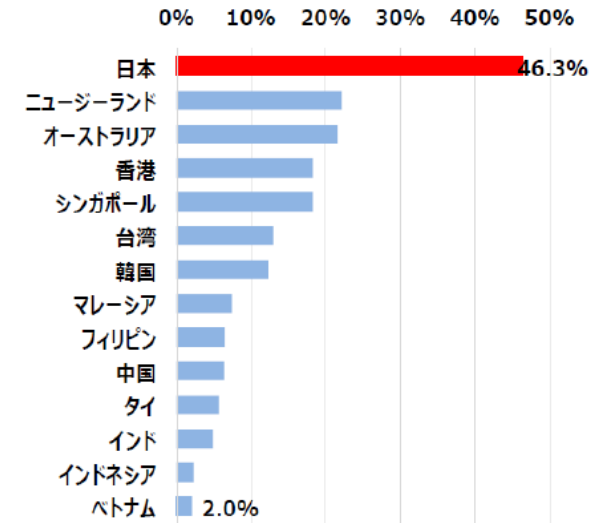
(資料)「Looking to 2060: Long-term global growth prospects」(OECD)

人材投資 (OJT以外) の国際比較 (GDP比)



(出所) 学習院大学宮川努教授による推計 (厚生労働省「平成30年版労働経済の分析」) を基に経済産業省が作成

社外学習・自己啓発を行っていない人の割合



(出所) パーソル総合研究所「APAC就業実態・成長意識調査 (2019年)」を基に経済産業省が作成

参考「大学等がリカレント教育に取り組む意義と推進に向けた方向性」(文部科学省 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/manabinaoshi/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/manabinaoshi/index.htm))

- OECDの予測では、2030年には日本の生産年齢人口が57.3%にまで減少し、OECD加盟国中最下位になる見込みであり、人手不足はより深刻化
- 日本企業のOJT以外の人材投資 (GDP比) は、G7諸国中で最も低い上に低下傾向
- 社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は半数近くで、アジア諸国と比較して不十分
- 自治体や地域の企業がこの時代を生き抜くためには、職員・従業員の力を伸ばし、生産性を上げることが必要不可欠

# リカレント教育に関する三重大学のこれまでの取組

**大学がリカレント教育に取り組む意義＜地域社会におけるメリット＞**：地域ニーズに沿う形で、技術・知識・スキルを習得するための教育プログラムを大学等が提供することは、地域における産業・雇用を作り、若者の修学・就業促進に寄与するなど、地域社会に広くメリットがあると考えられる。

## リカレント教育

社会変化への対応や自己実現を図るための以下①～③を内包した社会人の学び直し

大学・大学院や専門職大学院での学び（5学部6研究科）

- ・ **H21** 大学院地域イノベーション学研究科設置
- ・ **H29** 大学院教育学研究科（教職大学院）設置

### ①リスキリング

時代のニーズに即して職業上新たに求められる能力・スキルを身に付けること

三重大学リカレント教育センター  
(**R4**設置)

### ②アップスキリング

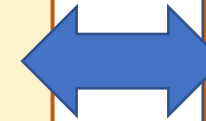
現在の職務を遂行する上で求められる能力・スキルを追加的に身に付けること

### ③職業とは直接的には結びつかない技術や教養等を身に付けること

公開講座や市民開放授業

- ・ 三重大学では公開講座だけで年間300以上の講座が開講され、延べ20,000人以上が受講

地域の  
学びたい個人  
学びを必要とする企業  
や自治体

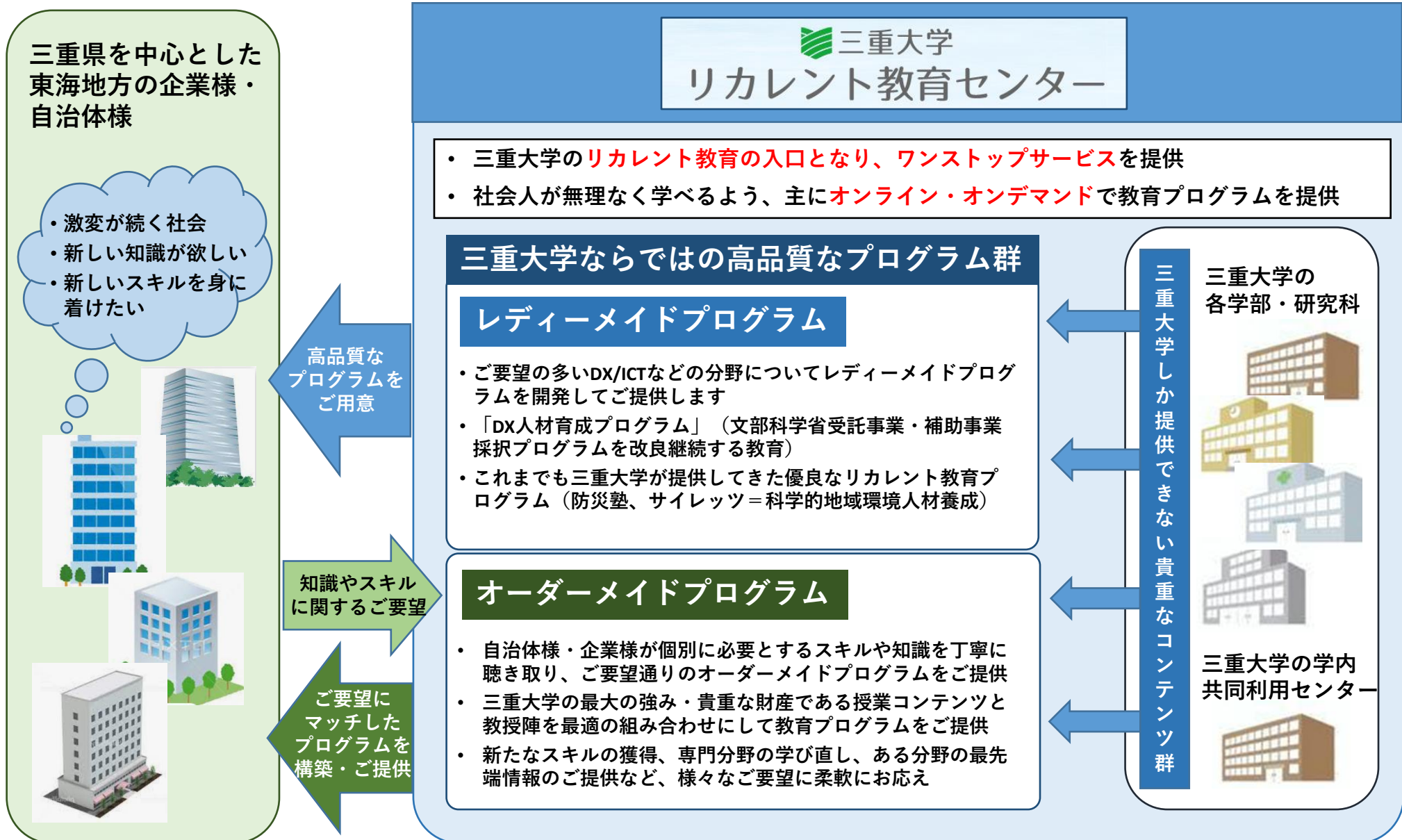


リカレント教育  
プラットフォームみえ  
(**R5**設立)

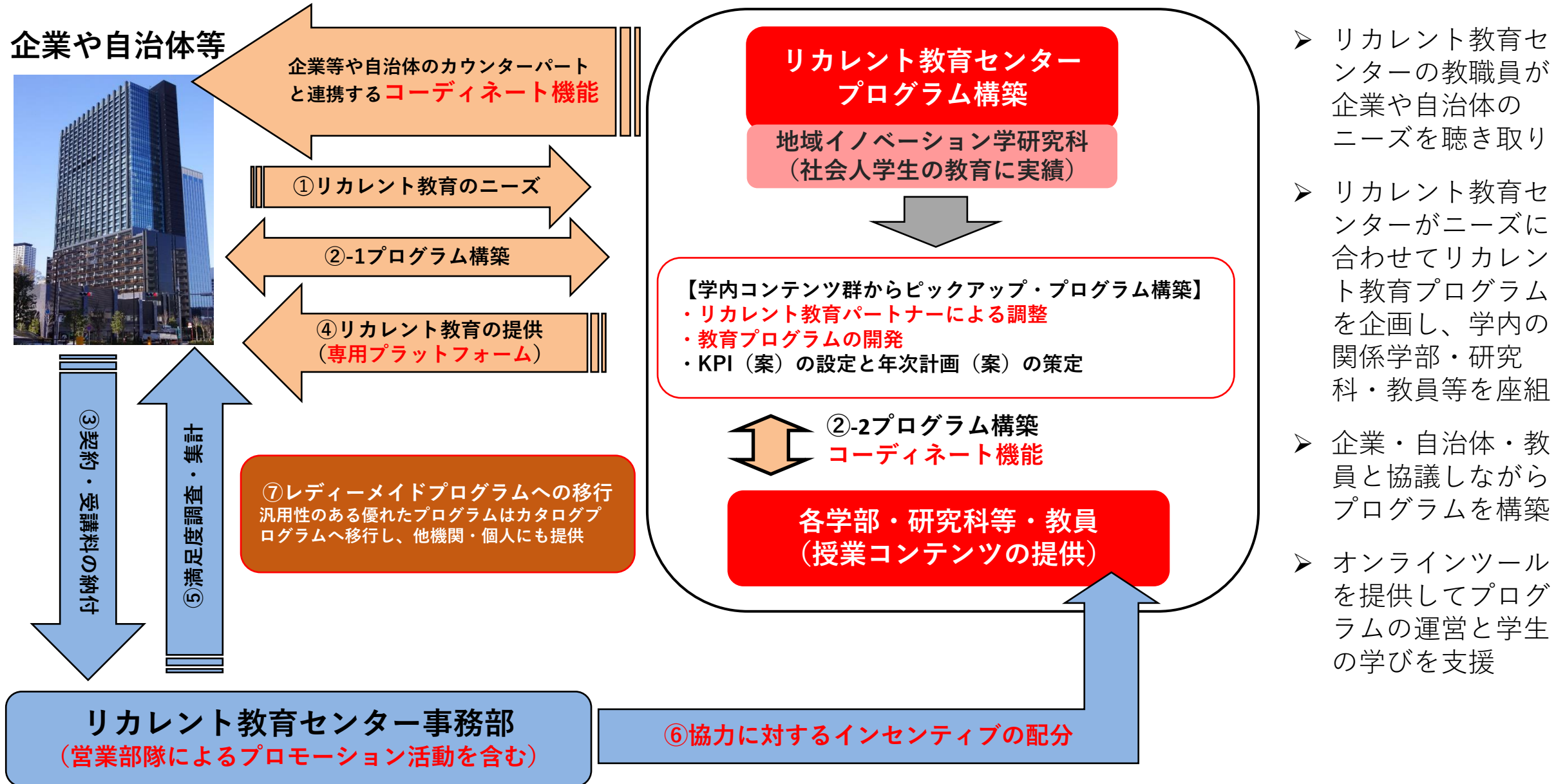
- ・ これまでの連携を礎に
- ・ 協議会の開催
- ・ コーディネーターの配置
- ・ ニーズ調査、
- ・ セミナー・シンポジウムの開催

地域のステークホルダー  
との交流が活性化

# 三重大学リカレント教育センターの活動



# オーダーメイドプログラムの構築



# 【オーダーメイドプログラム】 鈴鹿市・政策提案力向上プログラム



- 鈴鹿市では、末松則子市長を中心に、「学ぶこと」が働く人にもたらす成果や、組織がリカレント教育を活用することで得られる効果を認識
- 三重大学リカレント教育センターによるオーダーメイドプログラムを活用し、DXに関するスキル・知識の習得や、企画力・政策形成能力向上のための職員向けリカレント教育プログラムの実施を令和5年度に決定
- リカレント教育センターのコーディネートにより、人文学部教員が「政策提案力向上プログラム」を構築
- 講義とグループワークを組み合わせた内容で9回、ほかビデオ講義3コマを実施し、中堅職員5名が受講（令和6年8月～令和7年1月）

# 【オーダーメイドプログラム】 キオクシア(株)・課題抽出力育成プログラム



- キオクシア(株)では、AIを活用したデータ分析を進める中で、課題を抽出する能力の重要性を認識
- 三重大学とキオクシア(株)が連携して課題抽出力向上のための講座を開発
- この講座を通じて、「なぜ」という問いに焦点を当て、表面的な問題だけでなく、課題の本質を見抜き、その背景にある根本的な原因を特定する能力を養うことを目指した
- 講義とグループワークを組み合わせた実践的な内容で4回、ほかビデオ講義3コマを実施し、若手社員を中心に10名が受講（令和6年11月～12月）

# 【レディーメイドプログラム】DX人材育成プログラム



- 令和4年度および5年度は文部科学省からの支援を受け、今年度より自走化して開催（3年間で修了者54名）
- 企業等のDX・デジタル化に必要な基礎的な知識とスキルに加え、プロジェクトマネジメント能力を併せ持った人材を養成する目的でプログラムを構築
- 株式会社EBILAB、大学院地域イノベーション学研究科および当センターが連携し、講義および実際の企業データを用いた演習・グループワークを実施
- 成果発表会では、実社会データとBIツール等を用いて議論・検討した結果を基に、課題を見出すとともにその解決策を提案
- 修了者の企業において具体的な成果（社内での分析ツール活用、DX教育体制構築、DX支援サービスの事業化など）

# 【今後の展望】修了生コミュニティ（アルムナイ）の整備

## 三重大学DXリカレント教育講座修了生コミュニティとは

組織のDX推進、自ら課題発見・解決のためのスキル向上に取り組む、三重大学DXリカレント教育講座修了生のコミュニティです。

**目的** 修了生同士の活躍の事例や知見の共有、情報交換など、利用者間の繋がり場の場としての機能を目的としています。

**価値** 修了生間が繋がることで、個々のスキルを向上するとともに、地域の力の底上げになります。

### 修了生自身における、修了生コミュニティへの参加のメリット

他社・異業種の修了生間で  
意見交換ができる



大学の教授・先進的な企業の専  
門家との繋がりを継続できる



センターが提供するTeamsの  
チャット・ビデオ通話を利用  
できる



修了生間の活躍の事例や  
知見の共有ができる



センターからのお知らせを  
受け取ることができる



センターの教育活動に参画し、  
地域に貢献できる



- 令和4年度からオンラインの修了生コミュニティの場を整備し、希望者が活動を開始（34名が参加中）
- 「DX人材育成プログラム」修了者を対象に令和7年1月31日に初めて対面での会合を開催し、7名が参加
- リカレント教育プログラムでの学びが企業における自身の活動にどのように活かしているかを互いに発表しあった
- 今後は対象者を拡大しながら、受講生間の交流のため、年2回程度、定期的に行う予定